

特集：中間赤外線の暖かな世界へようこそ

巻頭言	中間赤外線で見える空は暖かい空です	尾中 敬	209
	地上からの中間赤外線観測の扉を開く COMICS	片坐宏一	210
	原始惑星系円盤のダスト進化とガスの散逸	本田充彦, 山下卓也, 酒向重行	216
	彗星の塵から原始惑星系円盤を探る	渡部潤一	222
	太陽系小天体の赤外線熱放射：100 m サイズ天体の大きさ測定	関口朋彦	225
	宇宙鉱物学最前線—死にかけ星のダストを追え！—	宮田隆志	229
	謎だらけの大質量星形成に挑む	岡本美子	235
天球儀	遠い国から	飯島 孝	241
シリーズ	《ミニラボ。～研究室紹介新ばーじょん(3)～》 専修大学自然科学研究所/情報科学センター	森 正夫	244
追悼	弓 滋先生を送る	横山紘一	246
雑報	日本天文学会 早川幸男基金による渡航報告書 <i>Magnetic Reconnection and the Dynamic Sun</i>	塩田大幸	248
月報だより			249

【表紙説明】

左上：HR4796A の 24.5 ミクロン画像。二つのぼんやりとしたピーク間の距離は 1.7 秒角であり、天体までの距離 (67 パーセク) を考慮すると 110 天文単位に相当する。

右：オリオン BN/KL 領域の中間赤外線 3 バンド合成画像。

赤：18.8 ミクロン、緑：12.4 ミクロン、青：8.7 ミクロン、上が北。画像は 29 秒角×38 秒角の大きさ。右上の明るい天体が BN、ほぼ中央にある緑色の勾玉型をした天体が IRc2 である。全体の励起源である電波源 “I” は IRc 2 の東端から南に伸びた構造の先端にある。IRc2 の右下の青色の天体が “n” と呼ばれる天体。

左下：銀河中心 300×220 ピクセル (約 40 秒角×30 秒角、約 1-1.5 パーセクに対応) の N バンド疑似カラー合成の図。青が 8.7 ミクロン、緑が 11.7 ミクロン、赤が 12.4 ミクロンを反映している。垂直から時計回りに 26 度方向が北。

(特集記事より：「地上からの中間赤外線観測の扉を開く COMICS」参照)